

# できたぞ！ソーセージ 福島の子供 帯広で体験



腸詰め器で肉を詰めながらソーセージ作りを楽しむ福島の子供たち（館山国敏撮影）

東京電力福島第一原発事故の影響により、屋外で自由に活動しづらい福島県の児童生徒を招く支援事業で十勝を訪れている子供たちが7日、帯広市八千代町の市畜産物加工研修センターでソーセージ作りを体験した。

通信制高校などを運営する星桜グループ（神奈川県大磯町）と帯広市による共同事業。夏休みを利用し、福島県相馬市の小学3年〜中学3年の39人を5日から受け入れている。児童生徒は同センター職員の手ほどきを受けてソー

セージ作りに挑戦。道産豚のひき肉にスパイスと水を加えボウルで混ぜた後、腸詰め器で肉をひねり出し、丁寧に袋状の羊の小腸に詰めていった。相馬市立磯部中の鎌田百子さん（3年）は「太くておいしいソーセージが

できた。早く食べたい」と夕食が待ちきれない様子で話した。一行は9日まで十勝に滞在し、帯広競馬場の見学や豚丼作りなどを楽しむ。（竹内桂佑）